21 徳島県神山町（かみやま）

地産地消　耕作放棄地対策　食育・教育

中国四国農政局 ディスカバー農山漁村の宝 選定地区

(株)フードハブ・プロジェクト

～地産地食　育てる、つくる、食べる、つなぐ～

地域のみんなでつくる加工品の開発・製造

地域のみんなで農業や食文化を次の世代につなぐ

経　緯

○中山間地域の神山町では、農業者の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の増加などが大きな社会問題になっている。
○地域の農と食を次の世代につないでいくために町役場、サテライト企業、町の公社の3者が出資し、地産地食に取り組む(株)フードハブ・プロジェクトを設立した。

取組内容

○「育てる、つくる、食べる、つなぐ」という小さな食の循環システムを通し、地域で栽培した農産物を使った食堂・パン屋・食品店を運営。地元の食材で加工品を開発。
○新規就農者の受け入れを実施。
○子供たちとの農業生産、加工、販売などの体験を実施。
○地元の農業高校と連携し、環境保全型農業を軸とした、農業生産、加工、販売などのカリキュラムを構築。

活動の効果

○地域の農業問題の解決、食文化の継承、雇用創出、移住促進、コミュニティの活性化、次世代教育など、幅広い範囲での地域社会の課題解決を担っている。
○農業高校に農家、料理人、加工品製造者などの人的リソースを提供し、魅力ある学校づくりを教員の方々と共に担っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

農業研修生を地域に根付かせていくため、技術的な指導、農地の斡旋を進めていく。また、子供達が、将来この町で農業や食に関わる仕事に興味を持ち、始められる環境づくりをしていく。

名西郡神山町神領字北190-1　Tel:088-676-1011

22 徳島県神山町（かみやま）

地産地消 | 耕作放棄地対策 | 食育・教育

白桃（しらもも）　薫（かおる）

～地産地食　育てる、つくる、食べる、つなぐ～

白桃　薫

地域の食材をたっぷりと使って作られる料理

経　緯

○中山間地域の神山町では、農業者の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の増加などが大きな社会問題になっている。
○地域の農と食を次の世代につないでいくために町役場、サテライト企業、町の公社の3者が出資し、取組を始めた。

取組内容

○「育てる、つくる、食べる、つなぐ」という小さな食の循環システムを通し、地域で栽培した農産物を使った食堂・パン屋・食品店を運営。地元の食材で加工品を開発。
○新規就農者の受け入れを実施。
○子供たちとの農業生産、加工、販売などの体験を実施。
○地元の農業高校と連携し、環境保全型農業を軸とした、農業生産、加工、販売などのカリキュラムを構築。

活動の効果

○地域の農業問題の解決、食文化の継承、雇用創出、移住促進、コミュニティの活性化、次世代教育など、幅広い範囲での地域社会の課題解決を担っている。
○「地産地食」で地域を育て、地域で食べる食を支え、若者が日々の農作業や料理に打ち込む姿が、地域の人の協力意識を変え始めている。
○農地情報や食材の提供など様々な協力連携体制ができはじめてきた。

応募者からのアピール・メッセージ

農業の高齢化や食文化の継承は、日本全国の中山間地域の課題であり、フードハブという考えを広め、様々な地域でそれぞれの課題解決の糸口になるよう協力していく。

名西郡神山町神領字本上角173　Tel:088-676-1011

23 徳島県那賀町（なか）

伝統の継承

木頭杉一本乗り保存会（きとうすぎいっぽんのほぞんかい）

～みんなでガロになろう！～

大会風景

大会風景（近影）

経　緯

○古くから木頭杉の産地である木頭地域では、バラ流しと呼ばれる一本ごとに流す方法で木材の搬出を行っており、そこから丸太の一本乗りの技能が生まれ、トラック輸送に変わる昭和30年後半ごろまで行われていた。
○一本乗りの技術の伝承と地域おこしのためにイベントとして復活させた。かつての一本乗りの名残りが伺えるのは全国で唯一となる。

取組内容

○一本乗り大会や講習会を実施。
○乗れた距離に応じて10級～1級、名人ライセンスが与えられる。
○大会2ヶ月前から毎週講習会を実施し、参加者の技能向上、伝承を図っている。
○毎年、地元中学生への体験講習の実施や、大学生や各種団体からの体験講習の依頼も積極的に受け入れている。

活動の効果

○「木頭杉一本乗り大会」は、他に類を見ない大会で、県内はもとより県外から毎年100人程度の参加者があり、夏の恒例イベントとして定着してきており、地域外の人との交流の場となっている。
○地元中学生への体験講習により、大会に参加する生徒が増えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

一本乗りの伝統技能を伝承するとともに、一本乗り大会、講習会を通じて地域外の人との交流も深め、みんなでガロ（伝説のカッパに似た生き物）になって楽しんでいます。

那賀郡那賀町木頭出原字マエダ34　Tel:0884-68-2311

24 徳島県那賀町（なか）

女性の活躍 | 学生・若者の活躍 | 次世代への地域財産の継承

有限会社（ゆうげんがいしゃ） 柚冬庵（ゆとうあん）

～柚子に全側面で対応し次世代へ継承する企業～

20～70代の幅広い女性が活躍する職場

ふるさと学習で子供たちに学習機会を提供

経　緯

○桃栗３年柿８年・柚子の大バカ１８年と言われるように実りにハンデのある柚子、先人の汗と血のにじむ努力で、地域の宝となった柚子は現在、地域の課題と共にある。
○設立は女性の社会的経済的不利解消がきっかけであるが、会社組織経営とともに農業、高齢化対策など、その時代の地域課題に即して事業発展を重ねてきた。

取組内容

○地域の宝、柚子と地域を継承するため、子育て女性の雇用、若い世代へワークショップ等柚子関連活動の機会提供の実施。
○地域財産である柚子を軸に、地域課題に常に向き合い、事業活動で具体的に解決。
○子育て世代の職場環境を整えた上での積極的な雇用。
○小中学校のふるさと学習等で柚子文化の学習機会を提供。

活動の効果

○地域財産としての企業を再認識し、経営を見直し消費者目線を導入、より身近な商品開発や流通ルートの確保を行い「木頭柚子」の全国ブランド化を進め地域内外の評価を上昇させた。
○安定的な経営基盤の元、地域の女性たちの雇用を創出し活躍する場を提供、子供や学生（若い世代）に柚子に関わる機会を増やし、地域財産である柚子（柚子文化）と地域（木頭地区）を次世代へ継承している。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域内外の若い人に柚子を通じて誇りや愛着を持ってもらい、那賀町木頭地区と地域財産である木頭柚子が、今後も愛され次世代へ継承されていくことを願って、活動に邁進していく。

那賀郡那賀町木頭南宇字ナカバン26　Tel：0884-68-2072

25 徳島県美波町（みなみ）

農村文化体験

伝統の継承

特定非営利活動法人（とくていひえいりかつどうほうじん）　赤松煙火保存会（あかまつえんかほぞんかい）

～できたん　どしたん　吹筒花火～

吹筒に黒色火薬を打ち込む作業

神社での奉納風景

経　緯

○美波町赤松地区は過疎化と高齢化が著しく、約200年続く伝統ある吹筒花火の作り手が減少。その製造技法の衰退と赤松神社への奉納花火の継続が危惧されていた。
○平成7年、有志により「赤松煙火保存会」を設立。平成25年、「赤松煙火保存会」を持続可能な団体とするため、NPO法人として再構築。

取組内容

○五穀豊穣と家内安全を祈願し赤松神社に奉納される吹筒花火は、15の花火組ごとに製造技法が異なり秘伝とされ、花火の美しさを競い合う。
○各種イベントでの吹筒花火の実演を通して花火の魅力を発信し、伝統文化への理解を深めてもらう活動を実施。
○花火工場の見学会、花火免許の取得奨励、事故防止のための保安教育などの活動に取り組む。

活動の効果

○伝統の吹筒花火は、地域住民による手作りの花火、共同作業を通して、住民相互のコミュニケーションが図られ、地域の活性化にも繋がっている。
○秋まつりに帰省する人達や地域外から花火の観覧に来る人も増加し、例年700人から800人の観覧客が訪れる。

応募団体からのアピール・メッセージ

約200年の伝統がある吹筒花火は、地元の住民が手造りすることに特徴があり、点火され燃焼する花火の下を若者が「できたん　どしたん」の掛け声とともに、勇ましく駆け巡る、全国の伝統花火の中でも珍しい風習です。

海部郡美波町赤松字総屋敷146-1　Tel:0884-79-3325

26 徳島県北島町（きたじま）

地産地消　食育・教育　学生・若者の活躍

株式会社なかのファーム（かぶしきがいしゃ）

～6次産業まとめて体験キッズDAYCAMP～

収穫デイキャンプ（芋掘り→製造体験→食育紙芝居）

小学生の職業体験（イベント販売）

経　緯

○徳島県産なると金時を使ったスイーツの開発・販売を行う。
○6次産業にほど近い事業者だからできるサービスはないか？地域社会に貢献出来るイベントは作れないか？と模索。
○たどり着いたのが、収穫・製造・食育などを一貫で体験できるプログラムの企画運営。

取組内容

○「6次産業まとめて体験キッズDAYCAMP」地域社会の未来を担う子供達を対象に、芋掘り体験、製造体験、紙芝居を使った食育体験、出来上がった商品の実食等、ワンストップで体験できるプログラを実施。
○地元保育園や小学校での出張食育や、職業体験への協力。
○地元大学生との共同開発やインターンシップの受入、卒業研究への協力。

活動の効果

○子供達は収穫から製造・販売までをワンストップで体験することにより、フードバリューチェーンの仕組みを自然と体験することができる。
○地元学生（保育園、小学校、大学等）と交流を続けることは、単なる社会貢献にとどまらず、自社製品の新たな商品開発のヒントや販路開拓に繋がり、売上の増加が期待できる。

応募団体からのアピール・メッセージ

子供達への活動を継続しつつ、新たに大人対象のプログラムを計画している。アフターコロナでは、首都圏や外国からの観光客等、ターゲットを拡大していきたい。

板野郡北島町高房字百居内40-13　Tel：088-698-5279

27 徳島県北島町（きたじま）

耕作放棄地対策 | 環境保全・景観保全 | 食育・教育

特定非営利活動法人とくしまコウノトリ基金（とくていひえいりかつどうほうじん／ききん）

～コウノトリで農業農村をより元気に！～

巣立ち直前のコウノトリのひな

耕作放棄地を整備したビオトープにコウノトリが飛来

経　緯

○鳴門市を中心とした農村地帯に、特別天然記念物のコウノトリが2015年から長期滞在し定着。
○新たなペアの誕生を促進させるため、2015年５月にコウノトリ定着推進連絡協議会が発足。
○活動の幅を広げるため、2019年８月にNPO法人とくしまコウノトリ基金として活動を開始。

取組内容

○コウノトリの野生復帰と環境保全活動を通じて、農業・農村の活性化を目指す。
○耕作放棄地をビオトープに再生。
○コウノトリが餌場として利用する水田で特別栽培によるお米（ビオトープ米）を生産し、日本酒を造るプロジェクトを主導。
○環境を守る活動を紹介しながら、農業地帯を自転車やカヌーで巡るエコツアーを企画。
○地元小学校で環境学習を実施。

活動の効果

○耕作放棄地をビオトープ（水田状態）に再生することで、コウノトリの餌場確保と耕作放棄地解消に寄与している。
○地元の酒蔵がビオトープ米で造った日本酒の売上の一部を活動に寄付することにより、農村で資源と経済が循環する仕組みを構築した。
○農村を巡るエコツアーや小学校での座学とフィールドワークを通して、環境や農業・農村への理解者を増やし、交流人口の増加が図れている。

応募団体からのアピール・メッセージ

定着しているコウノトリは５年連続で子育てに成功。地域では農業や地場産業、観光などにコウノトリを生かそうとする取組が広がりを見せています。

板野郡北島町中村字岸ノ上１－288　Tel：090-2825-6721

28 徳島県北島町（きたじま）

農林漁業　雇用　農福連携

はーとふる川内株式会社（かわうち　かぶしきがいしゃ）

～障がいとともに生き農業で働いて元気になる～

農園で働く社員；　集合写真

商品化されたドライトマト

経　緯

○大塚製薬株式会社の特例子会社として障がい者雇用を進めていたが、知的障がい者へ十分な業務を提供することができていなかった。
○トマトの生産・販売を手掛けるグループ会社から農業の提案があり、障がい者雇用農園を設立。障がい者とともにトマトの生産・販売を開始した。

取組内容

○障がい者の新規職域開発として、ハウストマトの生産・販売に取り組む。
○障がい者就労支援センターと協業し、トマトの栽培・加工・販売の全てを障がい者が行う6次産業化に取組む。
○「とくしま安^2 GAP農産物」認証を取得し、安全な職場整備と安心安全なトマトを市場に提供。
○ノウフクJAS事業者の認証を取得。ノウフクJASマークを貼付したトマトの販売を開始。

活動の効果

○4名の知的障がい者の雇用から開始し、新規雇用を増やし、現在は7名を雇用している。
○個々の障がい特性に応じた支援や指導を行うことで、職業人として農業に従事できるようになってきた。
○障がい者就労支援センターと協業することにより、農福連携－6次産業化が実現できた。

応募団体からのアピール・メッセージ

ノウフクJAS認証と農福連携等応援コンソーシアムや農福特例子会社連絡会への参画を通して、全国的な農福連携を推し進めていきます。

板野郡北島町高房字居内1-1　Tel:088-678-5276

29 徳島県上板町（かみいた）

農林漁業　伝統の継承　教育機関との連携

一般社団法人ジャパンブルー上板（いっぱんしゃだんほうじん　かみいた）

～人をつなぎ、技を育て、伝統をつなぐ～

上板熱中小学校（元気で活力ある人材の育成）

藍を活用した「藍マルシェ」

経　緯

○上板町は、人口減少と少子高齢化が課題で、町の活力低下の原因となっている。
○この課題解決のため、地域の活性化を担う人材の育成を中心目標とし、活動を始めた。さらに町と連動することで、より効果を上げている。

取組内容

○大人の社会塾として、上板熱中小学校を5年前に開講。全国から多彩な講師を招き、地方の活性化を担う人材を育成。
○伝統文化の継承として、藍の染料（すくも）作りや和三盆糖作りに取り組む。町営「技の館」の管理運営を行い、学生や一般の人向けに藍染体験を実施している。
○県内外の施設や学校等へ、藍染め体験の出前授業を実施している。

活動の効果

○上板熱中小学校は5年間で延べ600名が受講。受講生は意識改革を図る中で、郷土のすばらしさ、自然豊かな農村での生活は価値あるものと自覚することができた。
○日曜市や藍マルシェを企画運営し、郷土の活性化に繋がっている。
○藍・和三盆糖などの素晴らしい地域の伝統文化体験を通して、郷土を愛する人を増やしていきたい。

応募団体からのアピール・メッセージ

本年度から「技の館」を人材育成の活動拠点とし、研修会やイベント等により活力ある場を提供することで、町民が様々な形で利活用できる施設を目指していきます。

板野郡上板町泉谷字原東32-4　Tel: 088-637-6555

30 徳島県東(ひがし)みよし町

農泊　ジビエ　伝統の継承

木下(きのした)　正雄(まさお)（徳島県農林漁家民宿 うり坊）

～やまびこが響く農家民宿 うり坊～

農家民宿「うり坊」の代表者　木下さん

狩猟罠の見回り体験

経　緯

○にし阿波地域では高齢化や人口減少が進む中、都会の学生等にすばらしい自然が残る当地で四季折々の農作業等を体験してもらいたい。
○にし阿波地域の伝統的な傾斜地農耕や文化に対する理解を促進し、当地の活性化や文化の継承・保全ができればとの思いが活動のきっかけとなった。

取組内容

○都会の学生が周辺の農家に出向き、「傾斜地農耕」の農作業を体験。
○狩猟体験として、狩猟罠の見回り、シカやイノシシの解体作業を見学。
○急傾斜地で栽培した野菜や蕎麦を使った料理やジビエ料理を提供し、地産地消をはじめとする食育の取組。
○大学生と地元住民らによる地域の課題解決に向けたワークショップを実施。

活動の効果

○都会の学生たちに世界農業遺産に認定された傾斜地農耕を体験してもらうことで、急傾斜地農耕を継承することの意味や苦労を実感してもらえた。
○狩猟体験から、食べるということは動物等の「命をいただく」という意味と感謝する気持ちを実感してもらえた。
○ワークショップでは、熱心な討論により傾斜地農耕や文化の理解醸成が図られた。

応募者からのアピール・メッセージ

世界農業遺産に認定された傾斜地農耕等を体験し、この地域の独特の景観や伝統、食文化、先人の知恵と工夫に溢れた田舎暮らしを実感してもらいたい。

三好郡東みよし町東山字内野29　Tel:0883-79-5226

31 徳島県東(ひがし)みよし町

6次産業化　伝統の継承　移住・定住

合同会社(ごうどうがいしゃ)　法市(ほいち)の干し芋(ほしいも)

～守り続けたい農村がある！　ハタ・法市集落～

ロゴとブランド商品法市の干し芋

ECサイト　食べチョク商品ページ

経　緯

○世界農業遺産認定地である法市集落では、古くから干し芋が生産販売されているが、過量包装・廉価販売という地域の商習慣が根強く、適正価格で販売出来ていない。そのため費用に見合った収入が得られず、営農減少、集落衰退に繋がっている。
○所得確保、集落存続のためには、適正価格での販売が必要不可欠であり、ブランディング・販路開拓を進め、地域資源の6次産業化に取組んでいる。

取組内容

○従来のターゲット層にない30代～40代の女性をターゲットとしている。
○中学生への出前授業を実施。中学生考案の商品企画をアレンジし、地元洋菓子店とコラボしスーパーで販売。
○ECサイトで集落の野菜を販売。さつまいもや他の農産物を集落の人に栽培委託し収穫物を買取。
○農薬や化学肥料に頼らない持続可能な農業を実践。Uターン者を積極的に受入。

活動の効果

○コロナの影響により卸販売は激減し現在も厳しい状況だが、4年前から取り組んでいたEC販売は始めた年の10倍以上になり落ちた売上のカバーができた。
○中学生への出前授業により、法市集落や干し芋の取り組みを知ってもらえている。
○集落の人への栽培委託や収穫物買取で、集落活性化、地元者の所得向上が図られている。
○県外から1名雇用、Uターン1名は自社と協業している。集落の景観と傾斜地農業の保全に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

集落産の野菜は地元産直市、ＥＣサイトでも評価が高い。少量の買取ではあるが所得向上に繋がっており、少しでも地元に役立つよう今後も活動していきたい。

三好郡東みよし町加茂6020-3　Tel:080-3166-4574